

令和2年度 平塚工科高等学校 第2回学校運営協議会議事録

日時：令和2年10月31日（土）

13時00分～14時00分

場所：本校 第1応接室

司会 教頭

記録 亀井、夏井（広報企画グループ）

1 開 会

2 校長あいさつ（齋藤校長）

【齋藤校長】

前回の協議会は書面開催で行い、多くの意見を頂戴したので学校運営に反映させていきたい。コロナの影響で通常授業も難しく、文化祭も土日ではなく、土曜のみと規模を縮小して開催し、同居家族のみ来校して参加可能とした。日頃の活動、工業高校のPRにもなるため、こうした形での開催は残念ではあるが、来校した方々には楽しんでもらいたい。

教育活動としては、時差登校や授業における感染防止対策、インターネットやタブレットを利用したICT教育、G-Suiteで課題配付などを行い、日ごろの授業においてタブレットやWi-Fiを活用する教員が増えてきた。

管理棟の耐震補強工事を文化祭の後から開始し、約1年間の工事予定である。その後、仮設校舎を増築・内装変更を加えて、校舎棟として利用予定である。耐震工事は令和5年に完成予定である。

【宇山先生】

地域の中の学校として連携して充実した学校運営を期待している。

3 学校運営協議会

氏 名	所属・役職名	参加部会
宇山 裕之	平塚市立浜岳中学校校長	地域連携部会
小島 昇	平塚市立なでしこ小学校校長	地域連携部会
石田 裕昭	神奈川工科大学経営管理本部 企画入学課担当部長	キャリア教育部会
坂本 雅晴	特定非営利活動法人 ヨコハマみらい環境協議会理事	地域連携部会
石井 政夫	株式会社IMC代表取締役	キャリア教育部会
井上 弘司	横浜ゴム株式会社平塚製造所 平塚総務グループ課長補佐	キャリア教育部会
辻原 幸生	平塚市防災機器管理部 災害対策課訓練担当長	地域連携部会
松波 正利	本校同窓会副会長	キャリア教育部会
関 みどり	本校PTA会長	地域連携部会

(1)教育活動全般についての進捗状況報告

各グループから報告（資料4参照）

学 事：G-Suite を利用して教育活動を行っている。具体的には教員の研修、生徒のアカウント作成を行った。

進 路：就職希望は147名おり、その内121人が内定(85%)
コロナ禍の影響に負けず順調な様子である。大学進学数は減少しているが、オンラインで面接をする受験生もいるので対応している。

総 務：PTA・防災関連・防災訓練を中心に活動している。

広報企画：学校説明会を規模縮小をして行った。クラスター発生防止のため、事前予約方式で募集した。
地域の方へ改修工事の案内を配布を行った。
昨年度はなでしこ小で出前授業をし、今年度は大野中で実施予定である。また大学の先生による出前授業を本校で実施した。

教 科 外：1年生の部活加入が66.8%であり、昨年度より20%ほど上がった。
増加の背景としては、1学年担任の呼びかけ指導とClassroomを用いた勧誘が考えられる。新入生に対する部活動アンケートを来年度は実施予定であり、勧誘しやすい体制作りをしていきたい。
例年行っている陸上記録会は断念したものの、文化祭はスケジュールを切り詰めながらも実行委員と教員との連携で開催できた。

総合技術：特記事項なし

生徒支援：生徒の自転車乗車における近隣からの指摘があったため、学年集会で交通安全指導を実施した。さらに、耐震工事の関係で駐輪場の使い方も指導した。
心理不安定な生徒の対応としては、教育センターのカウンセラーと協力しながら行っている。

4 学校評価部会

(1) 校内評価（中間）報告

資料4参照。先程各グループから報告のあった通り。

【石田様】 コロナ禍の中、進学指導はどうか？大学希望者の減少の要因は？

【校 長】 新入試制度の変更、感染防止対策のためのウェブ面接導入など、難しい対応に迫られている環境である。さらに保護者の収入源も影響し、就職希望が増えている。

【石田様】 専門学校希望者数はどうか？また高校への対応はどうか？

【校 長】 希望生徒数は基本的に変化はない。専門学校側も学生確保に力を入れている。

【辻原様】 自転車の近隣苦情はどうか？

【校 長】 騒音に関する指摘は減ったものの、部活動の声や自転車の乗車に関するものは依然としてある。

【石井様】仮設校舎を建てたが、地域の避難所としての使用に問題は？

【校長】避難所は体育館と格技場なので問題ない。避難ルートや災害時に使用する門については地域との連携が必要である。津波に関しては実習棟を利用するため平塚市の災害課とも連携している。

(2) 学校関係者評価 (中間)

コロナ禍の影響で外部との交流が難しい状況である。例年行っているインターンシップを今年度は中止にした。また地域連携・交流を目的とした活動も中止とした。学校説明会でも授業見学は行わず、施設見学のみにとどめた。

防災事業については今後も取り組んでいく。

学習活動においては ICT の利用、基礎力診断テストの分析を行っていく。さらに ICT 化が職員への情報伝達にも利用でき、結果働き方改革にも繋がっている。

【宇山様】小・中学校では学習指導要領の内容を終わらせるため、夏休みを短縮、行事削減、通常授業の確保をしているが、高校 3 年生における工夫は？

【校長】臨時休業のときには、リモートで課題配付し、リモートで定着が見込めるものは通常登校後の授業で取り扱わなかったり、夏季・冬季・春季の休業を短縮したりして授業時間の確保を計画している。学校行事においては、授業との両立を目指しのためできる限り行いたい。必修ではないものが、高校にはあるため義務教育よりも柔軟に対応できているのが現状である。

【石井様】コロナ禍の中、実習はどのように実施しているか？

【校長】例年通りには難しいので、回数を減らすなど工夫して実施している。1 年生に対しては系選択に対応できるように満遍なく体験させている。自動車関係など資格取得について実施回数や時間で大きな影響があるものに対しては、3 年生は自由登校を減らすことを検討している。

【坂本様】G-Suite の利用方法はどのようなものか？

【校長】アンケートや問題演習、検温チェックなどで活用している。本校独自のものではなく、全県立高校で実施・利用している。

【小島様】G-Suite を家庭学習に利用させることはできないだろうか？

【校長】ICT 教育として学校で Wi-Fi を提供しながら生徒自身の端末を利用させ、さらに学校として端末の貸し出しも行って生徒に環境における不利益が出ないようにしている。映像配信を用いた事前事後学習も今後、行っていきたい。そのために、広報企画グループに事前動画の研究・配信を検討してもらっている。

【井上様】インターンシップや企業説明会を来年度再開したい。

【校長】ぜひお願いしたい。
令和 4 年度から就業体験活動であるデュアルシステムが導入される。

【松波様】 自転車に対する車両である認識、事故を起こした時の対応は？

【校長】 賠償保険への加入を生徒・保護者に推奨している。
警察からの指導を生徒に伝達している。

5 意見交換

【鈴木】 コンソーシアムを実施し、実りある教育活動となった。内容は、脳波でドローンを飛行させるという出前授業であり、8月25日実施した。

6 閉会

【配布資料】

- 資料1 第1回学校運営協議会（書面会議）議事録
- 資料2 第1回学校運営協議会意見集約
- 資料3 学校評価報告書 校内評価（中間）
- 資料4 8月24日（月）地域連携部会開催結果
- 資料5 コンソーシアムを利用した出前授業について（報告）

○出席者

- ・宇山 裕之 平塚市立浜岳中学校校長
- ・小島 昇 平塚市立なでしこ小学校校長
- ・石田 裕昭 神奈川工科大学経営管理本部 企画入学課担当部長
- ・坂本 雅晴 特定非営利活動法人 ヨコハマみらい環境協議会理事
- ・石井 政夫 株式会社 I M C 代表取締役
- ・井上 弘司 横浜ゴム株式会社平塚製造所 平塚総務グループ 課長補佐
- ・辻原 幸生 平塚市防災機器管理部 災害対策課訓練担当長
- ・松波 正利 本校同窓会副会長
- ・関 みどり 本校 P T A 会長
- ・齋藤 和宏 校長
- ・田代 武 副校長
- ・蓑島 信成 教頭
- ・深代 照子 事務長
- ・藤井 智之 学事グループリーダー
- ・鈴木 浩司 広報企画グループリーダー
- ・高木 一郎 進路指導グループリーダー
- ・秋澤 和利 総務グループリーダー
- ・田中 聡 教科外グループリーダー
- ・小川 忍 生徒支援グループリーダー
- ・亀井 裕章 書記
- ・夏井 公大 書記

○次回開催予定日
年度末を予定。

問合せ先
教 頭 蓑島
電 話 (0463) 31-0417 (代表)
F A X (0463) 32-6983